



令和6年産

# きらみずき通信 第1号

令和6年6月1日  
JA 東びわこ営農振興課  
(TEL 0749-28-7851)  
湖東農業農村振興事務所農産普及課  
(TEL 0749-27-2228)

## 移植後1か月が中干し開始の目安！ 6月下旬の葉色低下にも注意しましょう！

### 1 湖東地域の「きらみずき」生育状況(5月末時点)

- ・ 本年、湖東地域では約26haで「きらみずき」の栽培が行われています。
- ・ 移植は5月10日～20日を中心に行われ、初期生育は概ね順調です。



5月31日時点の生育

#### ※ 余剰苗は早急に処分してください！

補植用の余剰苗を放置したままのほ場があります。置き苗は葉いもちの伝染源になります。「きらみずき」は殺菌剤が使用できず、いもち病に弱いため、特に注意が必要です！



放置されたままの余剰苗

### 2 中干しの実施

#### ○中干し開始の目安

**50株植：茎数20本/株、60株植：茎数17本/株**

- ・ 中干しは、無効分げつを抑制し、過繁茂を防いだり、収穫直前まで入水可能な田面の硬さを確保するため、適期に実施しましょう。
- ・ 中干しの効果を高め、中干し後の水管理を容易に行うため、溝切りをしましょう。
- ・ 溝切り数日前に水を切り、田面を少し固めてから再度浅水にして溝を切ると崩れにくい溝を形成できます。

※環境保全型農業直接支払で「長期中干し(⑧、⑨)」に取り組むほ場は、溝切りは1本/10a以上、中干しは14日以上実施して下さい。



坪60株植での中干し開始時期の生育



軽くひび割れ、足跡がつく程度まで干す

### 3 追肥の施用

○ 6月下旬に葉色が低下したら、追肥を施用しましょう！

- ・ 「きらみずき」は初期生育が旺盛になりやすい傾向があり、穂肥を施用するまでに葉色が低下することがあります。(令和5年産で葉色の低下が見られました。)
- ・ 葉色が極端に低下すると、回復が遅れて減収につながることから、下記の目安に従い必要な場合は追肥を施用しましょう。
- ・ 有機肥料は肥効が発現するまで一定の期間を要しますので、施用が遅れないように注意しましょう。

#### 追肥の目安(側条施肥の場合)

葉色	<b>葉色板で3.8以下 (SPAD値で35以下) に低下した場合に追肥を施用</b>
施用量	有機質肥料で窒素成分1kg/10a (例)有機アグレット727 : 15~20kg/10a

※基肥が全層施肥の場合は、有機質肥料で窒素成分2kg/10a を確実に施用しましょう。



「きらみずき」のイメージキャラクター  
「キラミン」